

ボランティアだより岸和田

地域のイベント・ボランティア情報が満載!



ポッポ
岸和田市協
イメージ
キャラクター

発行所

岸和田市ボランティアセンター
〒596-0076
岸和田市野田町1-5-5
市立福祉総合センター2階
☎ 072(430)3366
FAX 072(431)1500
e-mail
vc@Kishiwadashisyakyo.onmicrosoft.com

編集

ボランティア情報紙編集委員会

拝啓 市民のみなさま

ボランティアセンターからのお知らせ

ボランティアだよりを手にとっていただきありがとうございます。

この文章をお読みいただいている方は、「ボランティアってなんだろう」「ボランティアに興味がある」と関心をお持ちだと思います。

「ボランティアをやってみたいけど、どうやったらいいの?」「ひとりでもはじめるの?」といった疑問やお気持ちに寄り添いながら、ボランティア活動を推進しているのが、岸和田市ボランティアセンターです。

みなさまと一緒に岸和田市民が気持ちよく笑いあえる街づくりをしていきます。

ボランティアセンターではこんなことをしています

- ① あなたの希望に沿ったボランティアを紹介します。
- ② ボランティアに来てほしい方々にボランティアを紹介します。
- ③ 企業や団体などの社会貢献のお手伝いをします。
- ④ 情報誌の発行や YouTube など情報発信しています。
- ⑤ 分野を超えた人と人・団体との連携を支援します。
- ⑥ ボランティア保険の加入窓口です。

「聞こえに不安はありませんか?」 ～聞こえにくくなったら、どうする?～

人生の途中で耳が聞こえなくなった人や難聴者に、話し言葉を書いて伝える「要約筆記」というコミュニケーションのサポートがあることや、同じ立場の人と語り合える場のご紹介をします。

日程・場所 6月 8日(木) 八木市民センター
6月24日(土) 福祉センター
※内容はいずれも同じです。
都合の良い日にお申し込みください。

時間 14時～16時
定員 各20人(申込先着順)
申込方法 各日程3日前までに、電話またはファックスで申込
申込・問合せ先 社協(地域福祉係)
☎ 072-437-8854 FAX 431-1500

ブラインド ウクレレクラブ

♪ サポーター募集のお知らせ ♪

本年10月にスタート予定の視覚障がい者向けウクレレ教室のサポーター(健常者)を募集します。

☆サポーター定員 5名

☆ウクレレ未経験者 大歓迎

☆練習用ウクレレは貸出いたします

連絡先 アイサポート泉州 吉川
電話 090-1228-2242



地域で未来を支える フォーラム

今年度第1弾のフォーラムは、大人向けCAP(子どもへの暴力防止)ワークショップを開催します。大人から子どもへの暴力や子ども同士など、暴力の被害者となることが多い子どもをいかに守り育てていくか、参加者同士の交流を交えながらみんなで考えていきたいと思います。

開催日時 6月3日(土) 13時半～16時
開催場所 福祉センター
参加費 無料
申込・問合せ先 ボランティアセンター 072-430-3366



申込はQRでも可能です。

「いざ」というときのための備え

ボランティア保険のご案内

◎ボランティア活動保険

補償の種類	国内で活動中に、 ①ボランティア自身がケガをした際の傷害補償 ②他の人の身体や財物に損害を与え、ボランティアが法律上の損害賠償責任を負った場合の賠償責任補償	
加入できるのは	ボランティア活動を行うことを目的としている団体(自治会・老人会などは一部の活動のみ対象となります。)	
保険料(1人あたり)	Aプラン	300円
	Bプラン	500円
	Cプラン	600円
保険有効期間	4月1日から翌年3月31日まで(中途加入の場合は受付日の翌日から。)	
加入手続き	■社協に備え付けの「加入申込書」をご記入の上、保険料とともに提出ください。 ■名簿を別紙添付される場合は、必ず2部をご用意ください。	

◎ボランティア・市民活動行事保険

補償の種類	行事開催中に、 ①参加者やボランティアがケガをした際の傷害補償 ②参加者または第三者の身体や財物に損害を与え、主催者が法律上の損害賠償責任を負った場合の賠償責任補償	
加入できるのは	ボランティア団体・各種市民活動団体(自治会・老人会・子ども会なども含みます。)	
保険料(1人あたり)	行事内容により区分が異なります。また、宿泊を除いて、最低20人分の保険料が必要です。	
	A区分	30円
	B区分	134円
C区分	262円	
	保険有効期間	行事期間中(開催日前日までに申し込みが必要です。)
加入手続き	■社協に備え付けの「加入申込書」をご記入の上、保険料とともに提出ください。 ■名簿を別紙添付される場合は、必ず2部をご用意ください。	

補償内容などの詳細はホームページでもご覧いただけます。
<http://www.syakyo.or.jp/vc-hoken.html>

編集後記

本号に特集された柴山さんは「ひばり」の会員。「つながり」の坂東さんはOB。そして、私は25年の古参会員。奇しくも「ひばり」の今昔を振り返ることができました。「ひばり」が今、スムーズにデジタル録音できているのは坂東さんの功績大です。

コロナ禍でなかなか坂東さんをお見かけする事がなかったのですが、今回「つながり」での様子を拝見して、懐かしく又お元気で活動されている事、とても嬉しかったです。

(編集委員 永島)

【ボランティアセンターは水・日・祝はお休みとなっております。】

定年後の過ごし方

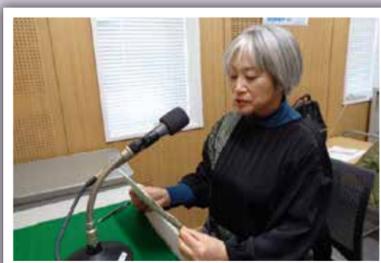
今回ご紹介するのは「朗読ボランティアひばり(以下ひばり)」入会4年目の柴山美由己さんです。柴山さんは中学教諭で定年を迎え、その後3年間講師として勤め上げました。

「ひばり」とは

目の不自由な方に向けて、書籍に声を吹き込む録音図書製作や広報きしわだ・岸視協だより等広報誌の音声版製作、対面朗読に取り組んでいるボランティアグループです。

●定年前のボランティアのイメージ

仕事柄、体験学習でガイドヘルパーや車いす体験等でボランティアの認識はありましたが、はっきりボランティアを意識したのは阪神淡路大震災の時の災害ボランティアさんでした。当時、自身は仕事、家庭、子育て(子どもの入院)等もあり忙殺される日々を過ごしていて、ボランティアのイメージはと聞かれるとあの時の災害ボランティアさんです。



録音中の柴山さん

●ボランティアを始めたきっかけ

退職後は、着物のリメイク等を習いながら過ごしていましたが、知らない事を教わる立場になりたいと強く思っていました。そんな時に朗読ボランティア養成講座を見つけ、心が惹かれ受講を希望しました。養成講座はカリキュラムがきっちり組まれていて、とても有意義に受講できました。



左はPC操作、右は声を吹きこむ

●ボランティアをやってみての感想

今は「ひばり」の活動の中で岸視協だよりと社協だよりを読んでいます。利用者さんとの接点が直接ないのでボランティアの実感はあまり無いかな。しかし、今後は録音図書の製作も挑戦したいし、対面朗読で目の前の利用者さんとの繋がりを実感したいです。そのためにも勉強はもっとも必要だと感じています。



インタビューの様子

●取材を終えて

スキルアップの為の学習に対しても向上心が高く、活動に真摯に取り組む様子はとても頼もしく思いました。また、お話を伺うとご夫婦も長く少年剣道の有償ボランティアをされているとか。これからもご夫婦がお元気でボランティア活動を続けられますように心からエールを送ります。

(編集委員 永島)

坂東茂雄さんは、最初「ひばり」中心の活動でした。その後、「視覚障害者PCサポートネットつながり(以下、つながり)」に軸を移し、現在は代表を務められています。

「つながり」とは

視覚障がい者がパソコンを利用できるよう個人にあわせたサポートをしています。視覚障がい者に向けた読み上げ機能をもつソフトを使います。

●好きなことをする

定年退職を迎えると、暇な時間ができたことから、自分に何ができるか考えるようになりました。そんな時、社協だよりに朗読ボランティア講座の案内が載っていました。

学生時代には演劇に関心があり、声を出すのは得意です。朗読は「ひばり」でできるし、本を読むのも好きです。特別な技量があれば、それを活かす道もあるでしょう。そうは思えなかったのですが、とにかく自分が好きなこと、嫌でないことをしようと思いました。



インタビューを受ける坂東さん(右)の様子

●二つの転換期

「ひばり」に入った15年ほど前は、録音がテープからCDに移行していく、まさに過渡期でした。当時パソコンでCDに録音していたのは2人だけです。テープの訂正は難しいけれど、パソコンを使えば簡単です。私は、仕事でパソコンを使っていたので、先輩のテープのCD化も担当しました。

「ひばり」の活動は面白かったのですが、もう一つの「つながり」の中心にいた人たちが引退していきました。滑舌が少し悪くなったこともあり、自分の活動の中心が「つながり」に移りました。



ソフトを使って操作指導

「つながり」の活動で、発見がたくさんありました。長く付き合いのある視覚障がい者の生活でさえ、全く知らなかったことがわかりました。ボランティアする気持ちも変わりました。「手伝ってほしい」と言われて、自分に何かできることはうれしいことです。「こんなことをしてほしい」と言われできなくて、勉強して自分の腕が上がるのも楽しいことです。

してあげていると思っていましたが、そうではありませんでした。

●「つながり」を知ってください

「つながり」の存在を市民にも知らせたいというのが、一番の望みです。そして一人でも多くの当事者やサポーターにつながりたいと思います。

視覚障がい者がパソコンを使えるというんなことが楽にできます。パソコンは機能が進化しています。インターネットにつなげばオンライン会議もできます。それは仕事にもつながります。

「つながり」では当事者ひとりひとりを見て、その人に沿ってサポートします。「つながり」での会議は、両者で一緒にやります。この場そのものも大切な「居場所」になっています。

(編集委員 川口)